

# ラムサール条約登録後の 環境保全の在り方を探る――

## ラムサール条約登録記念フォーラム

問合せ  
地域環境創造室  
環境推進係 ☎09147

日本で唯一宮島だけに生息する  
ミヤジマトンボ。  
それは、  
汽水域（潮汐湿地）でしか生きられない、  
か弱き生き物です――。



広島工業大学教授  
うえしま・ひでき  
上嶋 英機さん



ミヤジマトンボ保護管理  
連絡協議会会長  
さかもと・みつる  
坂本 充さん



阪南大国際観光学部  
准教授  
もりしげ・まさゆき  
森重 昌之さん



環境省中国四国地方  
環境事務所長  
みずたに・ともお  
水谷 知生さん



秋吉台科学博物館  
名誉館長  
くらもと・ただし  
庫本 正さん



広島大学大学院  
総合科学研究科准教授  
フランク・カロリンさん



広島大学名誉教授  
せき・たろう  
関 太郎さん



成熟したミヤジマトンボ（オス）。体長は約5cm、胴体に白や黒の斑点があるのが特徴。他のトンボのヤゴがいるとミヤジマトンボのヤゴは捕食されてしまうため、他のヤゴが生きられない海水と混じり合う汽水域という特殊な環境でしか生息できない。写真提供 環境省中国四国地方環境事務所

宮島の湿地がラムサール条約に登録されたことによる記念フォーラムが、11月23日宮島小学校体育館で行われました。約100人が県内外から参加し、パネルディスカッションや船上見学を通じて、登録後の環境保全の在り方を探りました。

基調講演では、阪南大国際観光学部の森重昌之准教授が、国内登録地の保全活動やエコツーリズム活動について、ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会の坂本充会長が、ミヤジマトンボがこの地に生き残った理由などを紹介しました。

パネルディスカッションではパネラー5人が加わり、自然環境資源の「解放と保護」に向けた新たなスタンスの形成や、観光との共有、次世代の担い手育成など、それぞれの立場から登録地の環境管理と活用に向けての意見が出されました。

ラムサール条約とは国際的に重要な湿地や、そこに住む動植物の保全を促進することを目的に1975年に発効。日本で既に登録されている湿地は46カ所です（平成24年7月現在）。

ミヤジマトンボは、環境省と広島県の絶滅危惧種1類に分類され、日本で唯一宮島だけに生息しています。

### 目の不自由な人のために

- 「広報はつかいち」のカセットテープ、デジタイズ図書、点訳本があります。  
問合せ 廿日市市社会福祉協議会 ☎0294
- 音声読み上げのための「広報はつかいち」のテキスト版をホームページに掲載しています。  
問合せ 広報統計課 広報統計係 ☎09121

### 編集後記

新年あけましておめでとございます。今年も「広報はつかいち」をよろしく願います。

今月号の表紙、カキの抑制柵は、廿日市市民にとっては見慣れた風景かもしれません。しかし、ふと足を止めると、いつもと違った表情を見せてくれます。昨年は年間400万人を超える観光客が宮島に訪れましたが、訪れた人がこのまちから持ち帰るのは、きっとそれぞれに違った風景のはずです。

「地域資源はどここの地域にも必ず存在するものですが、意外と気付きにくいもの」とは取材先で聞いた言葉。

当たり前にそこに存在するものの価値をもう一度考えて見ると素晴らしい発見があるのかもしれないですね。新しい年の始まりです。皆さんにとって素晴らしい一年になりますように。

川辺

**広報はつかいち** 発行 廿日市市 〒738-8501 広島県廿日市市下平良一丁目11番1号 ☎0829②0001代・☎0829③1059  
編集 分権政策部 広報統計課 広報統計係  
ホームページアドレス <http://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/>  
フェイスブックアドレス <http://www.facebook.com/hatsukaichicity>

●市政ラジオ放送 FMはつかいち 76.1MHz  
月～金曜日 8:40～8:55 13:10～13:25 17:10～17:25 土曜日 9:10～9:25

◆人口と世帯数 12月1日現在 ( )は前月比  
人口: 117,925人 (+1人) 男性: 56,604人 (-10人) 女性: 61,321人 (+11人) 世帯数: 49,193世帯 (+21世帯)